

「生きもの、自然とのかかわり」



こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 「あーあ、つぶしたらダメでしょ！」
- 「水たまりに入ったら、泥んこになっちゃうでしょ！」
- 「そっとさわらなきゃダメでしょ！」
- 「危ないからダメ」

実は…

- 自分の手でつかまえない、さわってみたい(加減が難しくくて)。あーあ、つぶしちゃった。
- 雨あがりっていつもと違って不思議!おもしろい!
- 大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんみたいにやってみたい。自分でためしてみたい。

大切にしたいこと

自然や小動物に触れることで、子どもは新たな一面を目のあたりにしたり、心を動かしたりします。そのような経験により、子どもは生命の不思議さや尊さに気づき、命あるものとして生きものや自然を大切にできる気持ちが子どものなかに育まれていきます。

おとなの先入観をうえつけず、子どもといっしょに自然にふれあいながら、保育者自身が楽しんで、それを子どもたちと共有し合うことで、子どもも自然にふれることが楽しくなっていきます。

興味をもったことに心を動かし、子どもの感性が広がっていく体験が、生きものや自然に主体的にかかわり、感じたことや考えたことを表現する力の基礎となります。幼児期になると友だちと共感することでその力が育まれ、さらに考えたり試したりすることが楽しいと思えるようになっていきます。

こんなかかわりしてしまっていないかな？

『甘えたい』子どもに対し…

- 「いつもしているからできるでしょ」
- 「前は自分でしていたのに！」
- 「ちょっと待ってね」と言いつつ、そのままにしてしまう。
- 「赤ちゃんみたい…」

『自分で』と主張する子どもに対し…

- 「早くして。もう〇〇の時間なのに」
- できないと決めつけてしまう。
- やらうとしていることを止めてしまう。
- おとなが全部してしまう。

おとなの都合で
考えてしまっていないかな!?



大切にしたいこと

2歳児はおとなに甘え、心の支えを得ながら自立に向かって自分を大きくしていくとする気もちが最も育つ時期です。日によって自立と甘えが行ったり来たりします。じゅうぶん甘えて得た安心感が自立の土台になっていきます。

気をつけたいことは、子どものペースに合わせて甘えと自立につきあうということです。人とかかわって力を合わせたり、よりよい関係をつくるためにルールを守ったりするなど対人関係の基本となるのはもちろん、子ども自らが「やりたい」と思う気もちが様々な力を身につける基礎となるでしょう。

“子ども”にとって甘えられる安心できる場所があるといいですね。また“おとな”も安心できる場所が必要です。保育や子育てで悩んでいることを安心して話せる関係になっていけるといいですね。



言葉で伝えられず…

噛む…押す…モノを取る…



周囲のおとなの態度や言葉がけが、そのままわりの子どもたちに伝わってしまうことも…

こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 「～しちゃだめよ」と一方的に怒る。
- みんなの前で同じ子ばかり声をかけたり、注意したりしている。
- “またあの子ではないか”と決めつけてしまう。
- 友だちとトラブルがあった時、その場の様子だけで、思い込んで先に注意をする。
- 子どもからしっかり話を聞かずに、「ごめんねは？」と謝るように強要する。

「好きなものへの執着」



こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 「お友だちにも貸してあげなきゃダメでしょ」
- 「今はだめでしょ」
- 「どのせんせいでも(どこでも)一緒!早くしなさい!」
- 「みんなお片づけしたよ」

実は…

- あれもこれも好きなものはぜ～んぶ使いたい。
- この場所がおちつくの…。
- 〇〇せんせいは、自分のことをわかってくれる。

大切にしたいこと

この時期の子どもたちは自我の芽生えを経て、自分の好きなものに執着するようになります。お気に入りの場所や人まで、なんでも「自分のもの」にしてしまいます。「〇〇ちゃんにとって大切なんだね」と保育者や周りのおとなが主張を受けとめることで、子どもは安心感を得て、落ち着いて過ごすことができます。

自分の思いやイメージに執着し、強く主張をする時期ですが、おとなや周りの子とのやりとりを経験しながら、自分の気もちをふり返ったり整理したりしていきます。そして、徐々に相手の気もちに気づく力が育ってきます。「子どもの行動には必ず意味がある」のです。子どもの行為を心の表現としてまわりのおとながその子に言葉にして伝えていきたいですね。